

## 平成 27 年仙台市の人口動向

人口の動向は、自然動態（出生及び死亡の動き）及び社会動態（転入及び転出の動き）によって説明されます。この特集は、平成 27 年 1 年間の仙台市の人口動向について、社会動態を中心に報告するものです。

- ・ 平成 24 年 7 月 9 日に改正住民基本台帳法が施行され、外国人住民にも住民票を作成することになりました。これに伴い、住民基本台帳に基づく同日以降の集計については、外国人住民人口を含めています。それ以前の集計については、改正前住民基本台帳法及び外国人登録法に基づく人口から集計しています。
- ・ そのため、2～5 ページの「登録人口による人口動向」及び統計表第 1 表は、平成 23 年以前、平成 24 年、平成 25 年以降を直接比較できませんので、ご留意下さい。

### 利用上の注意

- ・ 本報告書で用いた地域区分は次のとおりです。

仙台都市圏内の他市町村：塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、亶理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、富谷町、大衡村

北海道地方：北海道

東北地方：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県  
東北 5 県は、東北地方から宮城県を除いた地域

関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部地方：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県

近畿地方：三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※なお、本文中にある「その他の地方」は、特にことわりのない場合、上記のうち東北地方と東京圏を除いた地域をいいます。

### 用語の説明

- ・ 登録人口＝住民基本台帳人口（日本人住民＋外国人住民）

ただし、住民基本台帳法の改正（平成 24 年 7 月 9 日）以前の登録人口は、住民基本台帳人口（日本人住民）と外国人登録人口の合計となります。

- ・ 人口増加数＝自然増加数＋社会増加数

- ・ 自然増加数＝出生数－死亡数

- ・ 社会増加数＝転入数－転出数＋その他の増加数（職権記載・消除、国籍取得・喪失、転出取消等）

# 解 説

## I 登録人口（日本人住民＋外国人住民）による人口動向

### 1 概 要

平成 27 年末の登録人口は 105 万 6,503 人でした。

また、平成 27 年 1 年間の人口増加数は 2,994 人となり、平成 26 年の人口増加数 3,931 人に比べ 937 人の減少となっています。その内訳は、自然増加数が 697 人（対前年 365 人の減少）、社会増加数が 2,297 人（対前年 572 人の減少）となりました。

（図 1、表 1、統計表第 1 表）

図 1 人口増加数の推移（平成 18 年～27 年）

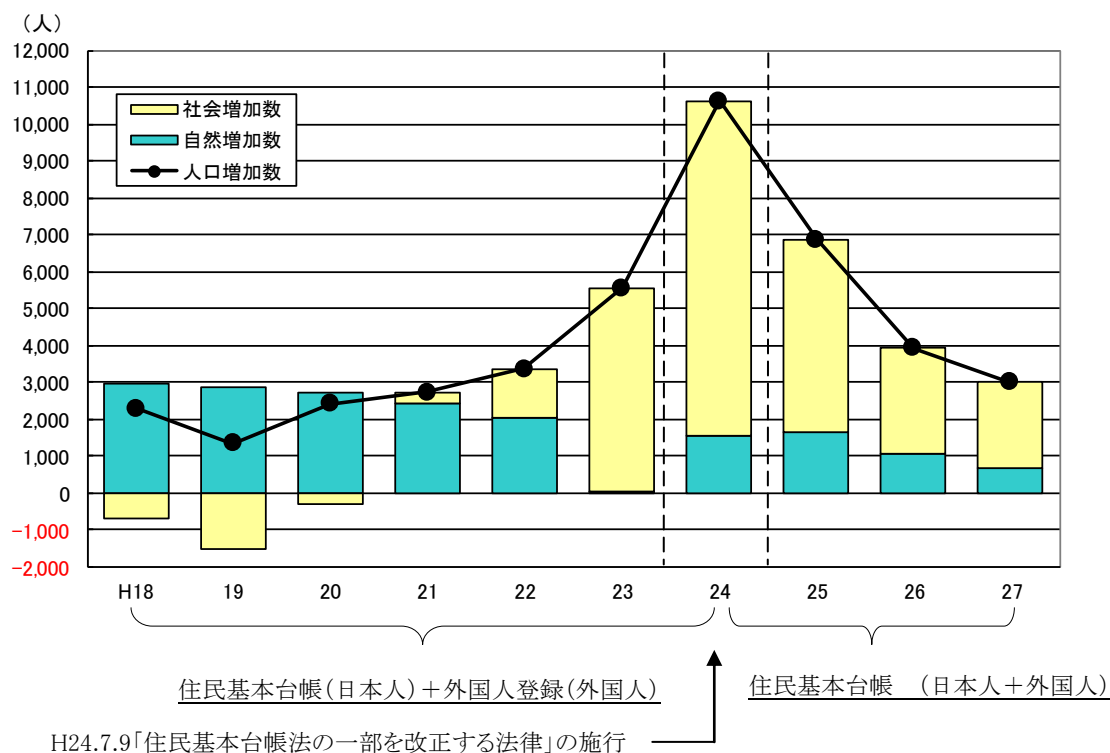


表 1 登録人口の推移—全市、区（平成 22 年～27 年）

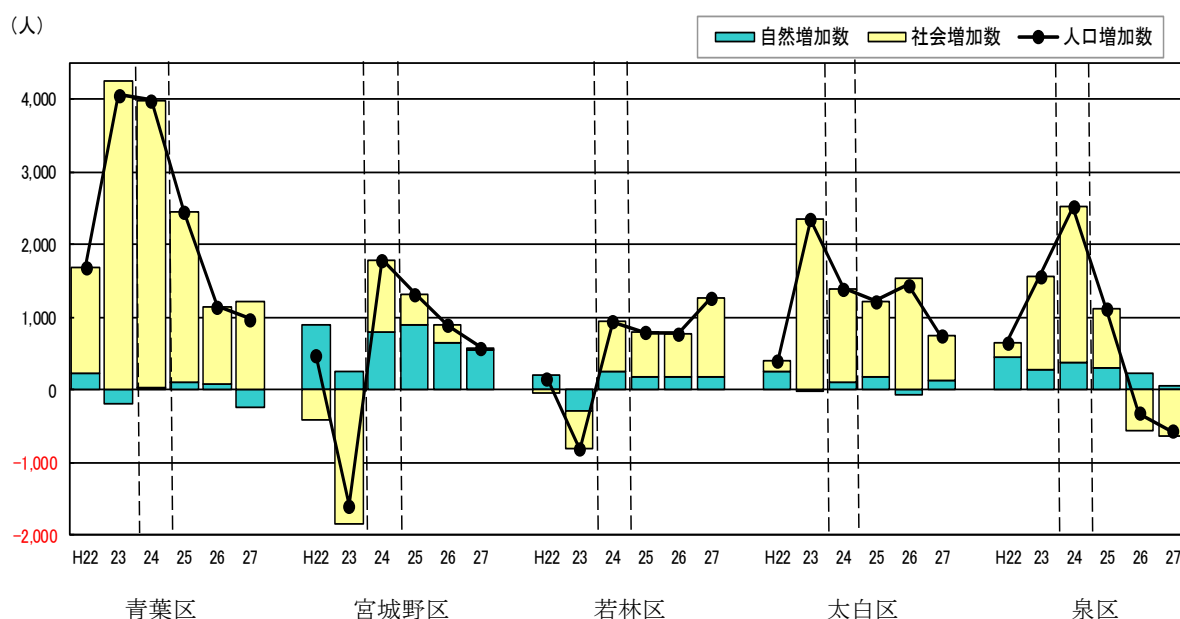
年次	各年末（単位：人）							
	仙台市	青葉区	うち 宮城総合 支所	宮城野区	若林区	太白区	うち 秋保総合 支所	泉区
平成22年	1,026,490	279,641	68,758	185,789	129,202	219,602	4,404	212,256
23	1,032,059	283,703	70,237	184,199	128,380	221,952	4,352	213,825
24	1,042,686	287,695	70,950	185,986	129,321	223,342	4,304	216,342
25	1,049,578	290,144	71,689	187,306	130,107	224,558	4,250	217,463
26	1,053,509	291,285	72,330	188,194	130,888	226,003	4,252	217,139
27	1,056,503	292,262	73,176	188,770	132,161	226,745	4,222	216,565

区別の動向をみると、泉区を除く全区において人口が増加していますが、前年の増加数を上回ったのは若林区のみでした。

人口増加数が最も多かったのは若林区の1,273人（自然増加数181人、社会増加数1,092人）で、以下、青葉区の977人（自然増加数△234人、社会増加数1,211人）、太白区の742人（自然増加数137人、社会増加数605人）、宮城野区の576人（自然増加数548人、社会増加数28人）、泉区の△574人（自然増加数65人、社会増加数△639人）でした。

（図2、表1、統計表第1表）

図2 人口増加数の推移－区（平成22～27年）



## 2 自然動態

平成27年の出生数は前年より59人減少して9,247人、死亡数は前年より306人増加して8,550人となったことから、自然増加数は697人となり、平成26年の1,062人に比べ365人減少しました。（図3、統計表第1表）

出生数は2年連続で減少、一方、死亡数は3年連続で増加しました。

自然増加数が最も多かったのは宮城野区の548人（出生数2,009人、死亡数1,461人）で、以下、若林区の181人（出生数1,178人、死亡数997人）、太白区の137人（出生数2,118人、死亡数1,981人）、泉区の65人（出生数1,646人、死亡数1,581人）、青葉区の△234人（出生数2,296人、死亡数2,530人）でした。

区別の動向をみると、出生数は、宮城野区と太白区で前年より増加、他3区では前年より減少しました。死亡数は、若林区を除く4区で前年より増加しました。

（図4、統計表第1表）

図3 自然動態の推移—全市（平成18年～27年）

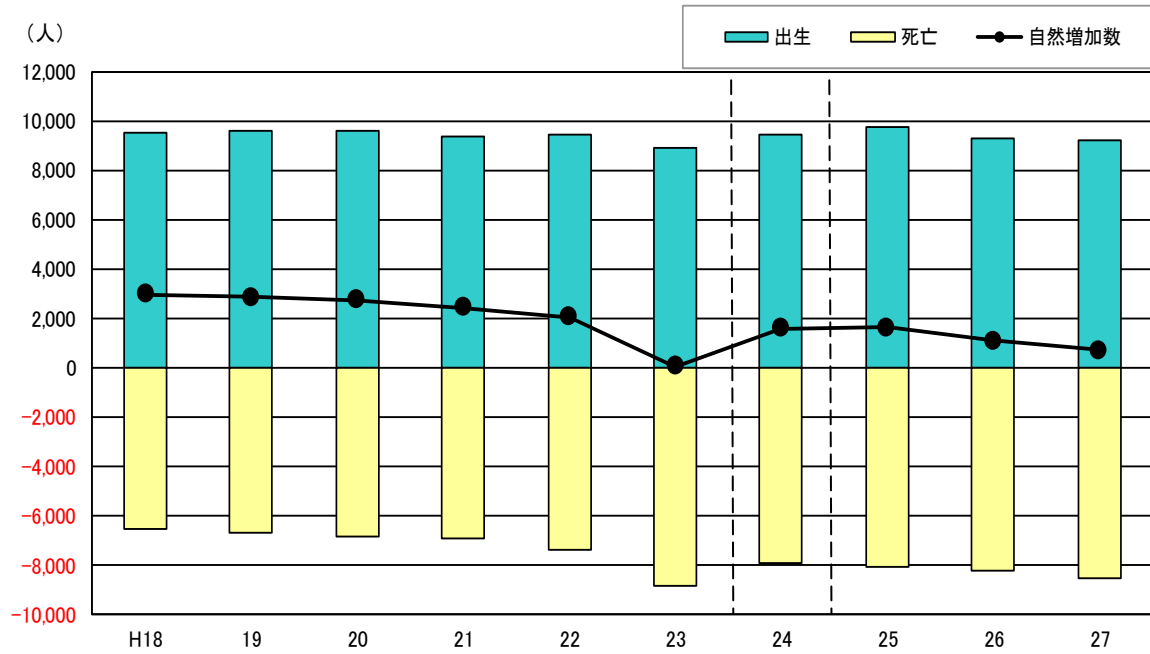
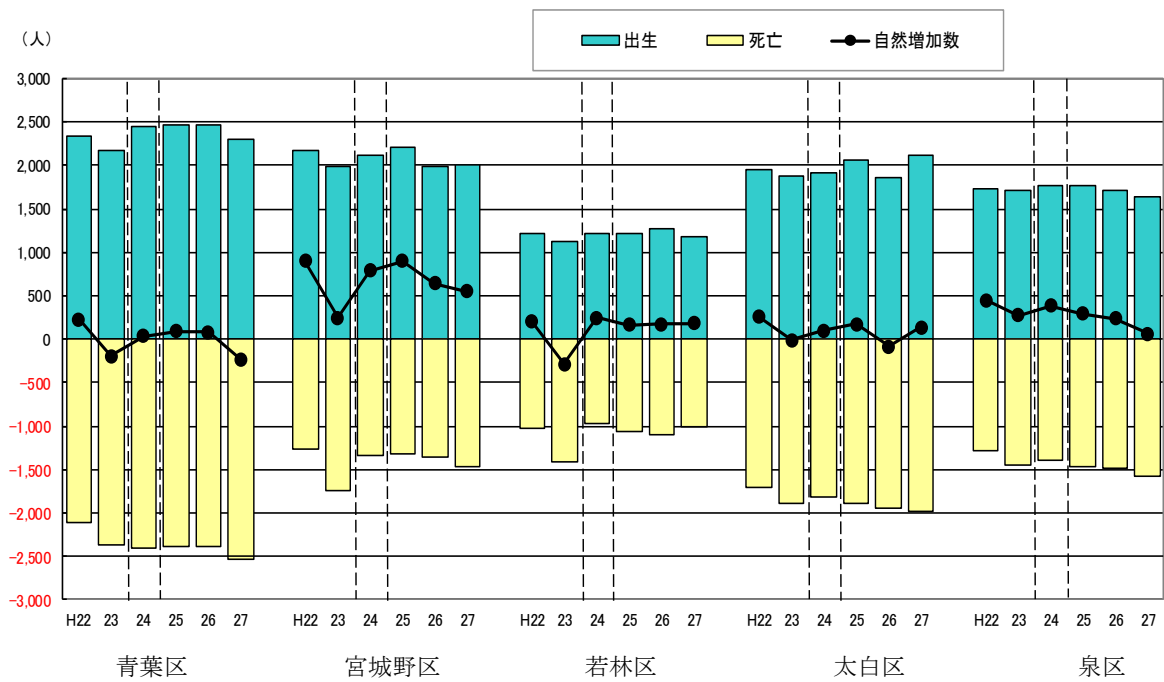


図4 自然動態の推移—区（平成22年～27年）



### 3 社会動態（区間移動含む）

平成 27 年の転入数は 7 万 1,205 人で前年より 2,181 人の増加、転出数は 6 万 8,531 人と前年より 2,536 人の増加、この結果、転入・転出数の差にその他増加数△377 人を加えた社会増加数は 2,297 人となりました。

区別の動向をみると、青葉区、若林区、太白区で県内移動、県外・国外との移動がともに転入超過となりました。宮城野区では県内移動が転出超過、県外・国外との移動が転入超過となりました。泉区では県内移動、県外・国外との移動がともに転出超過となりました。

社会増加数が最も多かったのは青葉区の 1,211 人（転入数 2 万 2,109 人、転出数 2 万 527 人、その他増加数△371 人）で、以下、若林区の 1,092 人（転入数 1 万 64 人、転出数 8,984 人、その他増加数 12 人）、太白区の 605 人（転入数 1 万 3,453 人、転出数 1 万 2,865 人、その他増加数 17 人）、宮城野区の 28 人（転入数 1 万 4,410 人、転出数 1 万 4,363 人、その他増加数△19 人）、泉区の△639 人（転入数 1 万 1,169 人、転出数 1 万 1,792 人、その他増加数△16 人）でした。

（図 5、統計表第 1 表）

図 5 社会増加数の推移—全市、区（平成 22 年～27 年）

